

2022年 3月期

# 第3四半期 決算説明会

2022年 2月 4日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社

代表取締役社長 荻原 豊



本資料には、当社グループに関する業績見通しや目標・計画等、将来に関する事項が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点において入手可能な情報や予測に基づく、当社グループの仮定や見通し等の判断によるものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。したがって、その後発生した種々の要因により、実際の業績や開発品の進捗・成否、その他の見通し等が記述内容と大きく異なる可能性があります。また医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その記述は宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2022年3月期 第3四半期 連結決算の概況

2022年3月期 連結業績予想

研究開発パイプラインの状況

グループ体制の刷新

## 2022年3月期 第3四半期 連結決算の概況

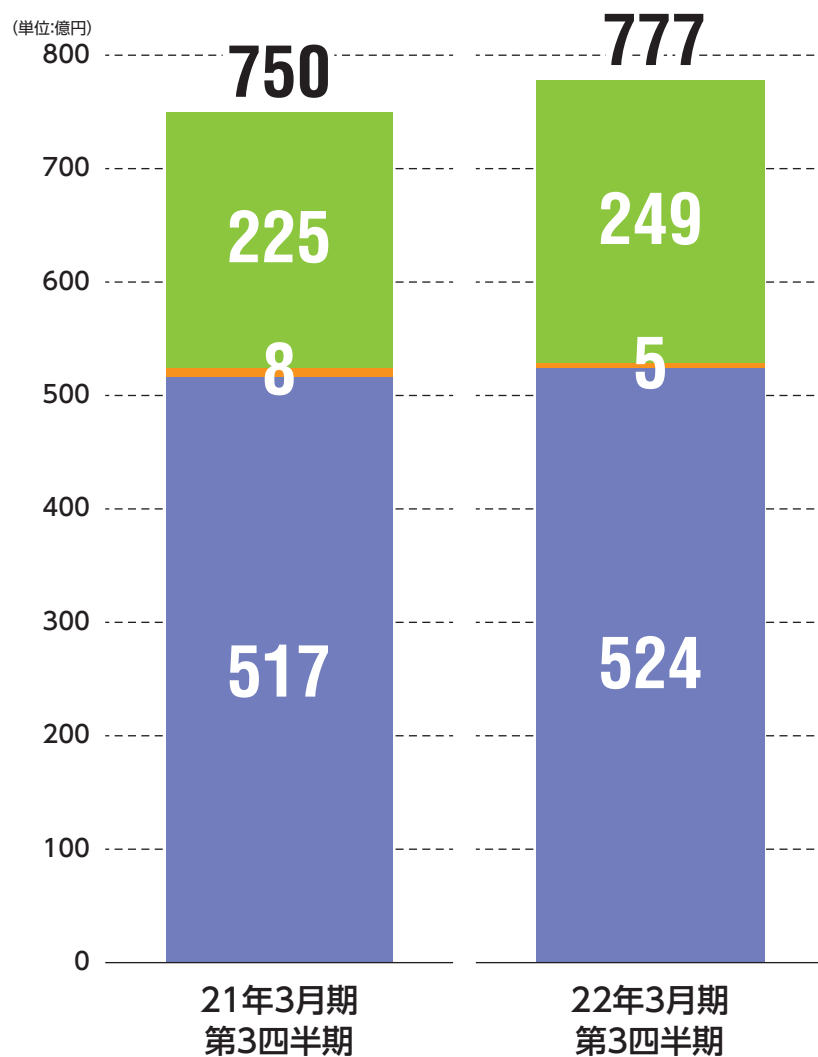
# 2022年3月期 第3四半期 業績の概要



(単位：億円)

	21年3月期 第3四半期	22年3月期 第3四半期	対前年		2022年3月期 進捗率(%)
			増減額	増減率(%)	
売上高	750	<b>777</b>	<b>n/a</b>	<b>n/a</b>	75.7
新医薬品等(国内)	517	524	n/a	n/a	76.3
新医薬品(海外)	8	5	n/a	n/a	61.7
後発医薬品	225	249	n/a	n/a	75.1
売上原価	362	<b>415</b>	<b>n/a</b>	<b>n/a</b>	—
販売費及び一般管理費 (研究開発費)	347 (76)	<b>333</b> (66)	<b>n/a</b> (-11)	<b>n/a</b> (-13.6)	— (71.4)
営業利益	41	<b>29</b>	<b>-12</b>	<b>-28.9</b>	88.7
経常利益	47	<b>35</b>	<b>-12</b>	<b>-24.5</b>	92.5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	45	<b>25</b>	<b>-20</b>	<b>-44.9</b>	92.0

※2022年3月期期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、前第3四半期連結累計期間の収益認識基準が異なることから、当第3四半期連結累計期間は前第3四半期連結累計期間と比較しての増減額及び増減率(%)は記載しておりません。なお、営業利益、経常利益、親会社に帰属する四半期純利益への影響はありません。



新医薬品等(国内)の増加

- 新薬群の伸長(デザレックス、ベオーバ、ラスビック)
- 長期収載品の売上増加(ペンタサ、ムコダイン等)

新医薬品(海外)の減少

後発医薬品の増加

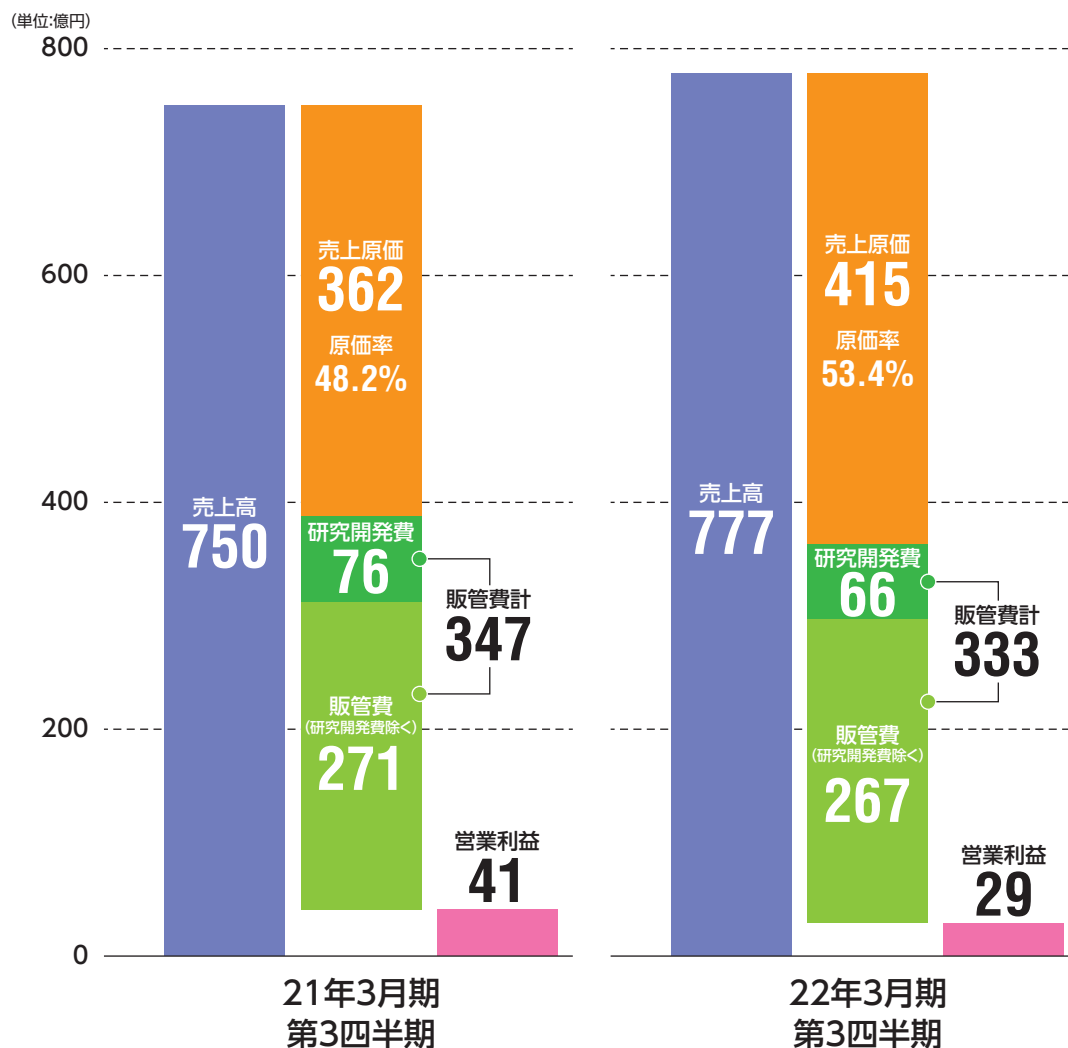
- キプレスのAG等、AG3製品の売上増加
- 追補収載品(6月、12月)の売上寄与

# 2022年3月期 第3四半期 主力製品の売上状況



(単位：億円)

		21年3月期 第3四半期	22年3月期 第3四半期	対前年		22年3月期 (予想)	22年3月期 進捗率(%)
				増減額	増減率(%)		
新医薬品等 (国内)	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	102	98	-4	-4.6	139	70.0
	デザレックス (アレルギー性疾患治療剤)	31	43	+12	+38.3	72	59.8
	ベオーバ(自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	55	65	+10	+16.8	86	74.7
	ラスビック (ニューキノロン系抗菌剤)	6	14	+8	+149.6	28	49.5
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	98	109	+11	+11.6	117	92.9
	ウリトス(自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	20	10	-10	-47.9	10	101.8
	ナゾネックス (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	12	13	+1	+3.6	18	68.9
	キプレス (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	59	61	+2	+4.2	69	87.8
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	25	29	+4	+12.5	29	96.4
	ミルトン (哺乳びん・乳首消毒剤)	17	16	-1	-5.6	22	70.7
ルビスタ (環境除菌・洗浄剤)	16	15	-1	-2.2	21	70.6	
後発医薬品	モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	73	85	+12	+16.7	92	91.7
	モメタゾン点鼻液「杏林」 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	17	19	+2	+11.6	35	53.4
	イミダフェナシン錠「杏林」 (過活動膀胱治療剤)	5	6	+1	+8.9	7	75.0



## 売上高は増加

### 売上原価率が上昇

【低下要因】

- 新薬群の売上拡大

【上昇要因】

- 薬価改定の影響 (杏林製薬6%台)
- 後発医薬品の売上増加
- 棚卸資産の除却損等の増加

## 売上総利益は減少

### 販管費は減少

- 研究開発費は減少  
前年度、AKP-009導入に関わる契約一時金を計上
- 販管費(研究開発費除く)は減少  
リフヌア錠導入に関わる契約一時金を計上  
コスト削減

## 営業利益は減少



2022年3月期 連結業績予想

# 2022年3月期 連結業績予想



(単位：億円)

	21年3月期	22年3月期	対前年	
			増減額	増減率(%)
<b>売上高</b>	<b>1,029</b>	<b>1,026</b>	<b>n/a</b>	<b>n/a</b>
新医薬品等(国内)	697	686	n/a	n/a
新医薬品(海外)	10	8	n/a	n/a
後発医薬品	322	331	n/a	n/a
<b>売上原価</b>	<b>513</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
<b>販売費及び一般管理費 (研究開発費)</b>	<b>458 (97)</b>	<b>— (92)</b>	<b>— (-5)</b>	<b>— (-5.2)</b>
<b>営業利益</b>	<b>58</b>	<b>33</b>	<b>-25</b>	<b>-43.0</b>
<b>経常利益</b>	<b>64</b>	<b>38</b>	<b>-26</b>	<b>-41.1</b>
<b>親会社株主に帰属する 当期純利益</b>	<b>61</b>	<b>27</b>	<b>-34</b>	<b>-56.0</b>

※通期の連結業績予想について：2021年5月11日に公表した通期の業績予想及び主力製品の売上予想は、変更してありません。

※2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、前期の収益認識基準が異なることから、当期は前期と比較しての増減額及び増減比(%)は記載していません。なお、営業利益、経常利益、親会社に帰属する当期純利益への影響はありません。

## 杏林製薬 西日本配送センター火災の状況

発生日時：2021年11月29日 午前8時50分ごろ(12月4日午後5時鎮火)

場 所：(株)日立物流西日本 舞洲営業所(大阪府大阪市此花区)

## 当社の被害状況と製品供給への影響

杏林製薬及びキョーリン リメディオの製品等の在庫保管状況から、製品供給には大きな影響はなかった

※西日本エリアへの製品等は、東日本配送センター(埼玉県加須市)より出荷

## 業績への影響

現時点では、連結業績予想に対する影響は、ないものと考えています

## 研究開発パイプラインの状況

21年度の進捗

※前回(2021年11月8日)からの変更点

	製品名・開発コード	PhI	PhII	PhIII	申請	承認・上市
呼吸器	KRP-R120 間質性肺疾患治療薬	終了				
	リフヌア錠45mg 咳嗽治療薬					MSD承認 (22年1月)※
感染症	KRP-A218 ライノウイルス感染症治療薬	(21年4月)				
泌尿器	KRP-116D 間質性膀胱炎治療剤					上市(21年4月)
	AKP-009 前立腺肥大症治療薬		あすか製薬終了※			

※PhIIa試験の結果を踏まえ、最大効果を確認するために、より高用量での検討が必要と考え、追加のPhI試験を開始

## [ 導出品の状況 ]

開発コード	導出先	開発段階	備考
KRP-203	Priothera	PhI	<ul style="list-style-type: none"> <li>●S1P受容体アゴニスト</li> <li>●対象:急性骨髄性白血病で造血幹細胞を移植する患者</li> <li>●知的財産及び原薬等を譲渡(20年9月)</li> </ul>
感音難聴開発化合物	Otonomy	非臨床	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「OTO-6XX」(Otonomy 開発コード)</li> <li>●ライセンス契約締結(20年8月)</li> </ul>

※FPR2作動薬プログラムは、導出先のBMSが開発戦略上の視点を踏まえ開発中止を決定したため、一覧から削除しました

## 導出先

米国ブリistol・マイヤーズ スクイブ (BMS)

## これまでの経緯

- 導出に関わるライセンス契約を締結(2015年12月)
- BMSが心血管領域でPh1試験を実施していることを公表(2018年1月)
- アメリカ化学会、欧州心臓病学会で杏林製薬・BMSが非臨床試験結果を発表(2019年8~9月)



**BMSは継続してPh1試験を実施していたが、  
この度、開発戦略上の視点を踏まえて、開発中止を決定し、  
付与されている開発権等を杏林製薬へ返還することとなった**

**今後、新たな導出先の探索に向けた活動を検討していく**

- MSDと日本国内における独占販売権に関する契約締結(2021年4月)
- MSDが製造販売承認取得(2022年1月)

#### 効能又は効果

難治性の慢性咳嗽

#### 用法及び用量

通常、成人にはゲーファピキサントとして1回45mgを1日2回経口投与する

#### 作用機序

気道の迷走神経のC線維上に発現しているP2X3受容体を介した細胞外ATPシグナル伝達の遮断により、感覚神経の活性化及び咳嗽を抑制する

難治性の慢性咳嗽に適応を有する世界初の  
選択的P2X3受容体拮抗薬として  
上市後早期に市場への浸透を図る

- 新型コロナウイルス感染症の治療薬として厚生労働省が特例承認(2021年12月)
- MSDとコ・プロモーション契約の締結(2022年1月)
- 両社でコ・プロモーション開始(2022年1月31日)

#### 効能又は効果

SARS-CoV-2による感染症

#### 用法及び用量

通常、18歳以上の患者にはモルヌピラビルとして1回800mgを1日2回、5日間経口投与する

#### 特長

- 「SARS-CoV-2 による感染症」を効能又は効果とする自宅でも服用可能な国内初の経口抗ウイルス剤
- リボヌクレオシドアナログの薬剤として、新型コロナウイルス感染症を引き起こすSARS-CoV-2の増殖を阻害

適正使用の推進を図り、  
新型コロナウイルス感染症治療への貢献を目指す



## グループ体制の刷新

中期  
経営計画

キョーリンMIC-'09計画  
2005~2009年

長期ビジョン「HOPE100」

ステージ1 2010~2015年	ステージ2 2016~2019年	ステージ3 2020~2023年
---------------------	---------------------	---------------------

目指す  
企業像

創薬ビジネスをコアとした  
特色ある複合ヘルスケア企業

健全な健康生活応援企業

事業  
ドメインの  
考え方

多角化の拡大

事業の選択と集中  
(多角化の縮小)

経営体制

2006年3月  
「純粋持株会社体制」

2023年4月  
「事業持株会社体制」

## 「革新的新薬の創製で世界に認められる企業」の実現にむけて



- 新薬事業を中核に据えて強力に推進し、ジェネリック事業、感染関連事業、医薬品製造受託事業を複合的に展開
- 新薬事業と連携することで経営効率を高め、患者さんや医療関係者に新たな価値を提供

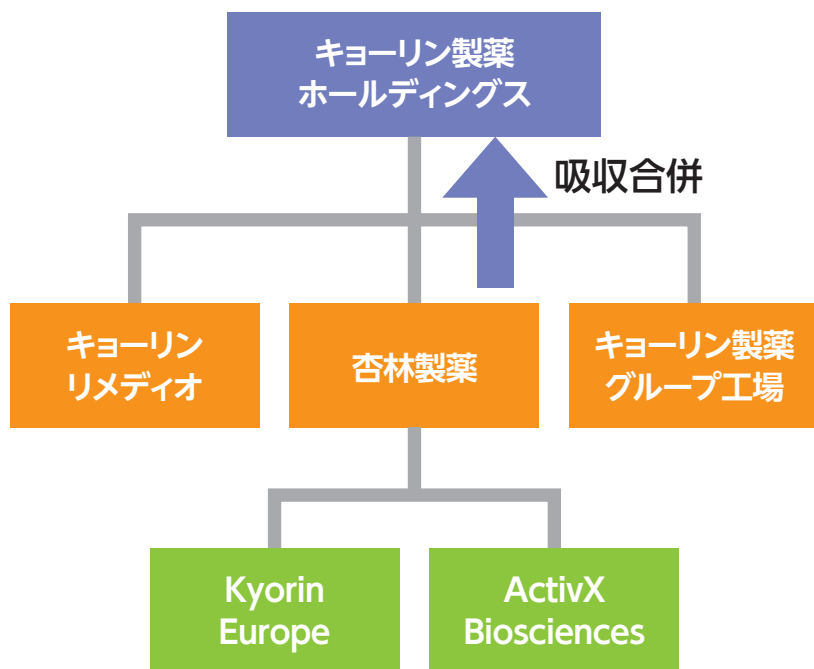


- 
- 2023年にグループ体制を刷新し、次の100年に向けてさらなる飛躍を目指す
-

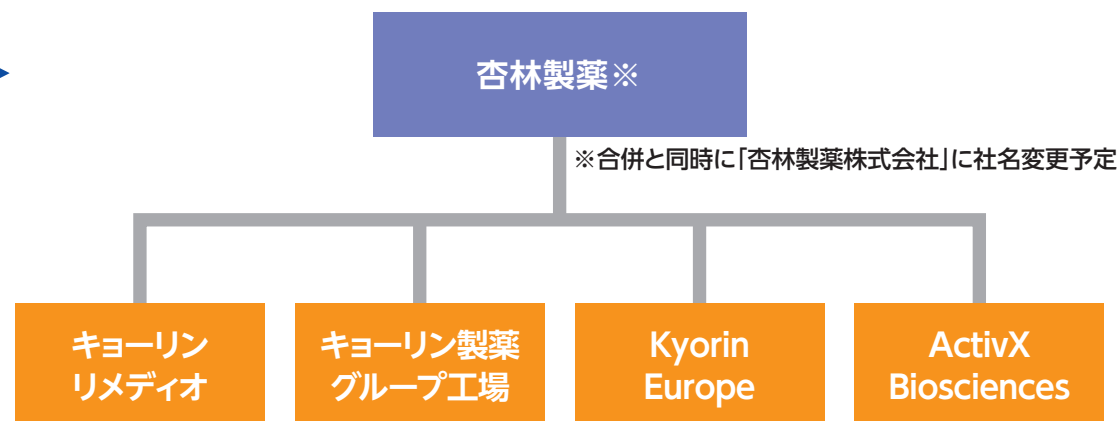
## 合併方式と日程

変更スキーム | キョーリン製薬ホールディングスが杏林製薬を吸収合併し、同時に社名を杏林製薬に変更予定  
 合併予定日 | 2023年4月1日

### [ 純粋持株会社体制 ]



### [ 事業持株会社体制 ]



*Kyorin* 